

不動産業業況等調査（2022年10月）^{*1}

● 現在の経営状況^{*2}

前回からの変化		
住宅・宅地分譲業	19.6 p	14.0 p ↗
不動産流通業（住宅地）	3.0 p	△ 0.1 p ↘
ビル賃貸業	7.5 p	0.4 p ↗

● 3ヶ月後経営状況見通し^{*3}

前回からの変化		
住宅・宅地分譲業	△ 3.6 p	3.8 p ↗
不動産流通業（住宅地）	△ 14.0 p	△ 8.9 p ↘
ビル賃貸業	△ 7.5 p	△ 5.1 p ↘

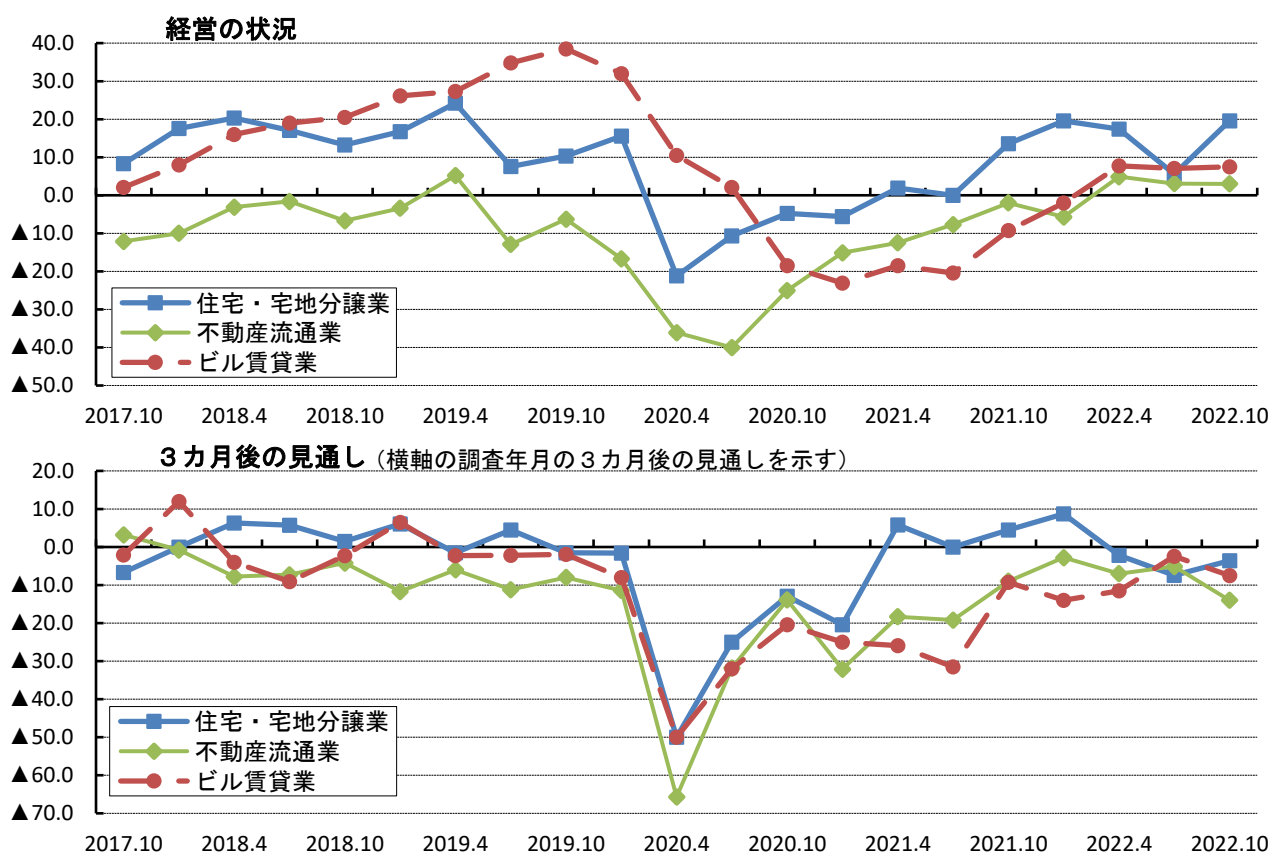
住宅・宅地分譲業の経営状況は前回から 14.0p 悪化改善し 19.6p。7期連続のプラス水準。
 不動産流通業は前回から 0.1p 悪化し 3.0p。3期連続のプラス水準。
 ビル賃貸業は前回から 0.4p 改善し 7.5p。3期連続のプラス水準。

3ヶ月後の見通しは、住宅・宅地分譲業で改善、不動産流通業、ビル賃貸業で悪化。

^{*1} 不動産業を営む企業を対象としたアンケート調査をもとに、不動産業業況指数を算定（-100～+100、0が判断の分かれ目）。調査時期は毎年1、4、7、10月。

^{*2} 経営の状況＝{（「良い」×2＋「やや良い」）－（「悪い」×2＋「やや悪い」）}÷2÷回答数×100

^{*3} 3ヶ月後の見通し＝{（「良くなる」×2＋「やや良くなる」）－（「悪くなる」×2＋「やや悪くなる」）}÷2÷回答数×100（調査年月の3カ月後の見通しを示す。）



[不動産業業況等調査結果（pdf）ダウンロード](#)

資料：一般財団法人 土地総合研究所「不動産業業況等調査」

土地総研メールマガジン 第120号「不動産業業況等調査」